

うのはな館冬の企画展

「かかねば 記録に残る日常と出来事」を開催

江戸時代から昭和にかけて東浦で暮らしていた人々の生活や寺社の日常は、日記や記録などから知ることができます。

寺社運営や災害、旅の記録、また水争いなどの生活を守るために大切に守られてきた地域の記録を取り上げ、東浦の人々が残した日記や日誌を中心に、当時の日常を覗き見つつ、ちょっとした出来事を紹介します。

●と き 2025 年 10 月 18 日(土曜日)～12 月 14 日(日曜日)

午前9時～午後5時 ※月曜休館

●ところ 東浦町郷土資料館（うのはな館）
（東浦町大字石浜字桜見台 18-4）

●入館料 無料

●主な展示資料

・「水野出羽守様御成諸事記（乾坤院所蔵）」

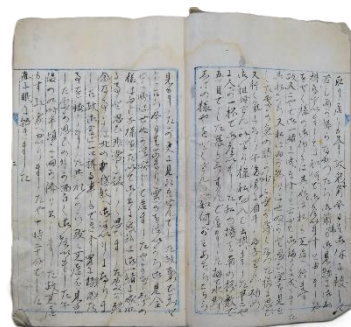
江戸幕府の老中、水野忠成^{ろうじゅう}が京都御用のついでに水野氏の氏寺である乾坤院^{ただあきら}に立ち寄りました。

水野忠成を迎えるにあたり、乾坤院では藩の役人から襖障子の張替えや畳替えを指示され、周辺の末寺^{うじでら}を総動員して対応した一連の記録が残されました。



・「日誌帳」

明治 38 年に石浜村の成田さを書いた日記。起床時間や就寝時間、その日の出来事が毎日書かれています。明治 38 年 10 月 6 日は、観劇に行くため朝から弁当を用意し髪を整えているなど、楽しみにしている様子がわかります。



■問い合わせ

東浦町郷土資料館（うのはな館）担当：花原・楠 ☎0562-82-1188 ※月曜休館